

連載

## 日本におけるダイバーシティを考える



全国専修学校各種学校総連合会 顧問  
学校法人敬心学園 理事長  
小林 光俊

### ●ダイバーシティの課題

ダイバーシティの概念は非常に広く、日本としては大きな課題です。

まずは、日本人同士のダイバーシティ教育について整理していく必要があります。そして、外国人との間の課題も整理し、改善していくといったように一つひとつ環境を整えていく必要があります。

ニュージーランドのアーダン首相（36歳 女性）が正式に結婚していないパートナーとの間に子を持ち、出産後休暇を取り、その後、仕事に復帰し、活躍した例があります。文化的な違いもあり、今の日本では考えがたいことですが、国際社会では非常に高く評価されました。

日本は、ダイバーシティに関して閉鎖的であり、国際社会に開かれた環境になるために、これを乗り越える必要があると思います。

具体的には選択肢を選ぶことができる新しい社会、多様な社会を通じて、国民が選択できる未来をつくれるように、変えていくことが重要となります。

3D（デジタル、ダイバーシティ、ディ・スプラクション）の1つでもあるダイバーシティは、日本が国際的な社会を切り開いていく上で乗り越えていかなければならない課題なのです。

この課題に大きく関わってくるのは、「教育」と「働き方」及び「外国人を含む職業人育成」だと考えます。

### 第4号の掲載内容

連載	1-3	日本におけるダイバーシティを考える 全国専修学校各種学校総連合会 顧問、学校法人敬心学園理事長 小林光俊
特集	4-6	第7回 公開研究会 『介護におけるダイバーシティをどう進めるか』 開催報告 認定特定非営利活動法人 外国人看護師・介護福祉士教育支援組織 理事 蔵本 孝治
特集	7-9	学園内 留学生の声を聴く (日本福祉教育専門学校・日本医学柔整鍼灸専門学校・日本児童教育専門学校 各校留学生)
告知	9	11月30日開催 「研究」に関する勉強会 講師：ジャーナル編集委員会 臨床福祉専門学校:町田先生・日本児童教育専門学校:安部先生
特集	10	職業教育研究開発センター 第1回研究員会議 報告 学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員 島谷 綾郁
告知・紹介	11	告知：12月2日開催 第8回 公開研究会 「外国人介護士と共に働く」 自著紹介：研究員ジリアン ヨーク (Jillian Isabelle Yorke)
資料・告知	12	資料：世界とつながる!! 敬心・研究ジャーナル J-STAGEへ 次号予告

今の日本は経済が活性化し、労働者不足が生じています。その一方で、少子高齢化の流れが止められない状態です。

だからこそ、外国人労働者に入ってきてもらい、日本の文化を知り、日本語を学んでもらう、そうすることで、国際社会において評価してもらえるような制度に切り替えていく必要があります。

私自身、ICL (Imperial College London) やUCL (University college London) を訪ねた際、学生の半分が外国人であることを知りました。そして、学生も教職員も異文化の融合の中で新しい物を見つける、ダイバーシティ環境を一番大切にしていると感じました。ダイバーシティの中から、本当のイノベーションが生まれてきており、イギリスの大学等ではこれを大切にしています。

日本は、ダイバーシティ環境について、まだ制度的に力を入れていません。イギリスなどを見習い、教育機関として配慮をした取り組みを今後行うことが重要であると考えます。

現代はグローバル環境の中で、人材教育システムを作っていないと生き残れない時代であり、高度な人材以上に、中核的な人材が多数必要とされています。より人数の多い中核的な人材への教育をしっかりと行わないと、物事がうまく回らず、国の発展はないでしょう。

留学生の話を聴いていると、「学費」、「学習」、「就職」という3つのことについて、ていねいに対応していく必要を感じました。



## ●学費、奨学金などの問題

外国人が日本で学び、就労し、そこで得た経験を国に帰ってから、リーダーとして生かしていただくのが一番良いかたちであると思います。そのために、様々な国の事情に合わせた支援としてシステムの構築をしていくことが大切です。それができた時、国際社会からの評価が高まり、日本が世界に開かれた、素晴らしい国だと国際的に評価されると思います。

奨学金についても、外国人にも日本人と同等に与えるシステムを構築する必要があるでしょう。

## ●学生募集、生活支援の課題

国を超えた課題があります。まずはどのような学習への課題を持っているのか、学生の本音をしっかりと聞き出すことが必要となります。そして、それに対する支援を考えた際、国や地方行政との協力に基づくシステムの構築や企業協力が必要となります。

例えば、外国人留学生のアルバイトが可能な時間は、28時間以内です。この枠を活かした生活支援のあり方、生活の場（寮など）をどのように提供していくことができるのかということも課題のひとつです。

## ●就職、労働条件に関する対策

難しい問題ですが、官民の協力や情報交換が必要だと考えます。日本語や生活問題のサポート体制を取り、各国の異文化を理解して、それに対するサポート体制を考えることが必要です。ある程度、コミュニティとしての支援体制がないとうまくまわらないので、市区町村と

協力し、民間の学校、アルバイトをする企業の協力体制もできればよいと考えます。

国は、十数業種（介護、農業、ITなど）で働く外国人を増やしていこうとしています。また、働く外国人に日本語新テストを受けてもらおうとしています。

主な日本語試験の一覧

名称	
公的資格	「新たな日本語試験」
	日本語能力試験（JLPT）
	日本留学試験（EJU）
民間資格	実用日本語検定
	日本語能力試験（JPT）
	ビジネス日本語能力テスト（BJT）

日本経済新聞より (2018. 10. 8)

このように、国をあげて広げる動きがある中で、民間もそれに合わせて努力をし、しっかりと支援体制を構築していく必要があります。

これによって、不法就労の防止や外国人労働者の適正な雇入れを行うことにつながります。そうすることで、日本の発展にもなるのです。

不法就労を防止するには、外国人の待遇を日本人と同等にするほか、理解を広げていく努力をすべきです。他にも、受入施設職員の質の向上や、日本文化の理解や日本語の補習授業の支援体制構築も必要となります。

地方にも、外国人労働者はいます。図書館や公民館で日本語・日本文化の補習授業を行うシステム構築が必要ではないでしょうか。

教員OBなど、65歳以上の方に、ボランティアとして教えてもらうのも一つの方法です。人生100年時代と言われる中、高齢者に新たな役割を担っていただくことができ、国際交流の基盤作りにもつながるのではないのでしょうか。



●敬心学園としての役割

職業教育は、生活の質、生活力、文化や経済力を上げることにつながります。日本の職業教育そのものを国際社会で評価してもらえるよう高度化し、国際社会から日本の高等教育、専門学校教育、職業教育が大変魅力的だと見られるようにPRしていかなければなりません。

私は、全国専修学校各種学校総連合会の会長として、そのようなことに取り組み、構築してきましたので、今は実のある物にしていきたいと考えています。

私は、日本経済活性化のために、ある意味で第2、第3の開国を政府は行うとしています。留学生を受け入れている専門学校として、各国の大使館と連携し、政府の方針に合ったいいないな支援体制を構築する必要があります。また、コミュニティにおける外国人留学生と日本人との関わりも重要ですので、市区町村の窓口とも連携していきたいです。

こういう良いモデルをつくり、全国に広める。それが職業教育のリーダー校としての敬心学園の役割ではないでしょうか。

●よりよい今後の展開（文化の相互交流や地域連携のありかた）

日本福祉教育専門学校の介護福祉学科では10カ国から、日本医学柔整鍼灸専門や日本児童教育専門学校でも留学生が学んでいます。

医療福祉の専門職養成機関として、留学生の受入に、より熱心な対応が必要です。

日本人も外国人も同じ人間として支え合う、助け合うことが大切であり、敬心学園の建学理念にも通じる話です。これは、人間としてとても大切なことだと考えます。

（談）

## 特集

## 第7回公開研究会 開催報告

## 『介護におけるダイバーシティをどう進めるか』

報告：蔵本 孝治

〔(認定NPO) 外国人看護師・介護福祉士教育支援組織〕

当日は、養成校関係者以外に、介護事業者、日本語教育、民間企業、学生など100名近い参加者をむかえ、早稲田速記医療福祉専門学校にて研究会を開催した。

学校法人敬心学園 小林 光俊理事長から留学生が学ぶ上での学習面なども含めたよりよい環境づくりなどについて考えていく必要性について挨拶から開始し、その後、「当事者の声から学びたい」という思いを持たれながらご参加いただいた高木美智子厚生労働副大臣（開催時）より、国としても介護福祉士を目指す留学生に対する支援に取り組んでいく考えが示された。



← 高木美智子  
前厚生労働副大臣



→ 学校法人敬心学園  
小林 光俊 理事長

シンポジウムの前に、基調講演として蔵本より、

『「留学生の学習支援に関する研究開発プロジェクト」の経過報告と今後の計画』について報告の後、当事者である留学生の声を聴くシンポジウムを開始した。

## ●シンポジウム『留学生から見た日本の介護』

コーディネーター：佐々木 綾子 氏（千葉大学 国際教養学部 講師）

シンポジスト：文 ジナ氏（早稲田速記医療福祉専門学校 1年・韓国）、ムハammadドリズキシャリフラー氏（日本福祉教育専門学校 1年・インドネシア）、スバシンガ アラチーゲー シローミ プリヤダルシャニ氏（関東福祉専門学校卒業生・スリランカ、特養勤務）

ここでは、留学生の「困っていること」や「サポート



してほしいこと」、「今後目指していること」、「期待していること」などについて発表、質疑が行われた。

## 【困っていること】

## ①学業とアルバイト両立の難しさ

留学生の多くは、日本に来るために借金をしており、生活費や学費を確保するために留学生は学校へ通いながらアルバイトをする。しかし、認められているアルバイトの時間は週28時間である。この時間は、留学生にとって



↑ 佐々木 綾子 氏

必須である一方で、アルバイトと学習の両立は容易ではない。

そのため、少額であったとしても、奨学金制度があると日本に来るための多額の費用を少しでも賄えるだけではなく、学業へのモチベーションにつながるといった発言があり、給付型奨学金の整備が必要であると感じた。



## ②相談相手（生活上など）がない、日本人学生と友達になることが難しい

日本人学生との関係においては、「母国では皆で食事をすることで仲良くなる習慣があるが、日本人学生と一緒に食事に行かない」、「授業の中では日本人学生と一緒にディスカッションできるが、授業以外では関係が作れていない」、「日本学生とコミュニケーションをとろうとしても曖昧（はっきり言わない）なので、理解が難しい」などの話があり、関係づくりの難しさが浮き彫りになった。

③歴史認識の問題と受容・共感・傾聴・・・

留学生から、「利用者から日韓併合や竹島（独島）の話がされた時、授業では利用者には共感的、受容的な態度で接すると習ったが、そのように接することはできず、どうしたら良いか悩んだ」という発言があった。歴史認識の問題が介助関係に影響することや、利用者との関係において受容・共感・傾聴が基本とされる中、そういった態度のみでは難しいケース（利用者や家族からのセクシャルハラスメントや暴言、威圧的態度など）への対応の課題（えてして個々の介護者が我慢する、うまくかわすなどの対応で終始し、組織的に検討されることが少ない）としての側面もあると感じた。



← 文 ジナ 氏



→ ムハammad  
リズキ  
シャリフラー氏

④就職後の日本人職員との関係

介護施設で就労する中で、「シフトの交代時に、正職員の自分ではなく、日本人のパート職員に申し送りをされたことにショックを受けた。言葉ができないことで、自分の仕事の能力が評価されていないと感じた。」という話があった。また、アパートの引っ越しを考えた際に、外国人に対する不動産屋の対応が冷たい、連帯保証人の確保が難しいという体験談が語られ、卒業生が日本に定着していくための課題についても考えさせられた。

このような厳しい環境の中でも、「ケアプランや介護技術を学びたい」「日本語能力試験のN1を取得したい」、「日本の文化や高齢者の生きてきた歴史的背景を学びたい」、「日本以外の国の介護も学びたい」など、前向きに学び、キャリア形成をしていきたいという考えが示されていた。

他にも、母校の教員からのコメントの際には、「学習面と生活面の両方に課題を抱える中、留学生は日本人



↑ スバシンガ  
アラチーゲー  
シローミ プリヤ  
ダルシャニ氏

学生の2倍も3倍も努力している」、「養成校は学習と生活の両面のサポートが重要である」という言葉が印象的であった。

●事例報告 『地域で育てる多文化介護～すみだ日本語教育支援の会～』

コーディネーター：小川 玲子 氏（千葉大学 社会科学研究院 准教授）



↑  
小川 玲子 氏

2008年から産（社会福祉法人 賛育会）・官（墨田区）・学（早稲田大学大学院 日本語教育研究科）・民（定年退職者のNPO団体 てーねん・

どすこい倶楽部）が連携して、定住外国人の介護職員の日本語学習・介護福祉士国家試験学習への支援を行っている。また、その活動から発展したアボット・カマイ（定住外国人介護職員によるボランティア活動）の取り組みについて報告された。



【地域で支える介護従事の外国人】

羽生 隆司 氏（すみだ日本語教育支援の会 副会長/社会福祉法人賛育会 はなみずきホーム施設長）

賛育会では、2005年にホームヘルパー2級を取得したフィリピン人を雇用したが、日本語の読み書きが就労上の課題となっており、本人たちも日本語の学習意欲があったため、日本語学習の場を作れないかという問題意識が活動の発端となった。



一方で、EPAによる外国人介護福祉士候補者の受け入れが決まり、日本語教育分野においても介護の日本語教育の重要性が高まっていたこともあって、早稲田大学大学院 日本語研究科の宮崎里司 教授との出会いがあり、

墨田区高齢者福祉課からてーねん・どすこい倶楽部を紹介されるなどの動きの中で、「すみだ日本語教育支援の会」の取り組みが始まった。

この取り組みは、毎週金曜日に日本語教室が開催され、早稲田大学に所属する日本語教師が授業を行い、てーねん・どすこい倶楽部のボランティアが受講生にマンツーマンについて学習のサポートを行っている。2012年には、教室から初の介護福祉国家試験の合格者が誕生した。



← 羽生 隆司 氏



→ 柳田 恭子 氏

**【日本介護施設で働いて】** 疋島 ヘルミニア 氏  
(フィリピン人介護福祉士)

疋島ヘルミニア氏は30年前に来日し、日本人と結婚し、ホテル清掃や弁当製造の仕事をしていた。しかし、外国人向けのヘルパー2級養成講座のチラシを見て、自分にも介護の仕事ができるという希望(介護の仕事に良いイメージがあった)を持ち、介護職として働き始めた。介護福祉士になりたいと思い、国家試験の学習を始め、地域包括支援センターなど言葉の意味を理解するのが難しかったが、6回受験して合格した。合格後は「周りの人の自分を見る目が変わった。給料もあがった。」と語った。

日本語ができないと入浴介助など力仕事、定型的な仕事に限定される、研修を受けてスキルを高めることができない、掲示物を見てもわからない(情報共有ができない)という定住外国人の介護職員の悩みも語られていた。

また、日本への恩返しとして、ボランティアグループ「アボット・カマイ(「手をとって助けあう」という意味)」を結成し、フィリピンのバンブーダンスのパフォーマンスをする活動が始まっている。



「すみだ日本語教育支援の会」の取り組み風景

**【地域における多文化共生の実践】** 柳田 恭子 氏  
(てーねん・どすこい倶楽部)

てーねん・どすこい倶楽部は日本語教室のボランティアに加え、アボット・カマイの活動も全面的にバックアップしている。NPOの中では、フィリピンの踊りでは人は集まらないという否定的な声もあったが、そのような声を説得した柳田氏は、「ボランティアは義務的な気持ちでは続けられない。日本語教室は自分にあっていた。」と語った。

すみだ日本語教育支援の会の活動を象徴するキーワードは「利の循環」である。「受講生(外国人介護職員)」「日本語教育専門家」「介護現場・専門家」「地域(てーねん・どすこい倶楽部)」が互いの強みを活かしながら連携し、相互に受益者となる関係が循環しながら継続している。

報告の後、フロアからすみだ日本語教室で日本語教師をつとめる中野玲子氏から「それぞれが自主的に動いた結果が“すみだモデル”になっている。他の地域では真似できないかもしれないが、それぞれの地域で、その地域の“利の循環”を作って欲しい。」とあった。留学生支援において、地域を巻き込んだ活動をどのように作っていくかが、改めて大きな課題として認識された。



← 疋島 ヘルミニア 氏



→ 川延 宗之  
センター長

2017年9月から在留資格「介護」が創設され、養成校の留学生も増え、卒業生も日本の介護現場で働き、活躍し始めている。

このような動きの中、外国人留学生の声に耳を傾け、「介護におけるダイバーシティをどう進めるか」について、一緒に考える良い機会となった。

研究会は、主催した職業教育研究開発センター 川延センター長による挨拶をもって閉会した。

(文責 編集部)

## 特集

 敬心学園 留学生の声  
 「うれしかったこと」「期待していること」

敬心学園：日本福祉教育専門学校・日本医学柔整鍼灸専門学校・日本児童教育専門学校に在学している留学生の中から7名の方に 以下2点をこたえていただいた。

## (1) 学園生活や日本の生活の中で うれしかったこと

## (2) 学園生活や日本の生活の中で もっと期待すること・こうであってほしいこと



レストゥ エルマ ハキキ氏  
 (出身国：インドネシア)  
 日本福祉教育専門学校

(1) 学校生活や日本の生活はすごく大変ですが、うれしいことが多いと思います。

留学してからのこれまでの生活をどう過ごしたか考えてみると色々なことを経験して内面の成長につながった。インドネシアでは何かあったらまずお母さんにまかせて自分は気にしていなくても自然に解決していたけど日本では自分の力で解決しないと何も進まない。そこから見ると日本では自分で責任を持って、自立するのが大事と思った。

いちばんうれしかったのがいっぱい友達を作り、一緒に過ごすことです。家族と離れても友達がいれば安心できる。友達がいれば何でも相談もできます。ですから、友達を大切にしたいと思います。

(2) 学校や授業に対して、もちろん日本人と一緒に授業する時に大変で漢字ばかりと言葉も難しいですが配ったプリントにふりがながのせてあるのでちょっと助かると思っていた。留学生の日本語サポートもあり、授業で何がわからないところとかがあったら、日本語の先生に聞いて、簡単な言葉で説明してくれるのですごく助かると思っている。日本語の勉強に力を入れれば、自信を持てると考えているので、このままですっと続けていきたいと思っている。日本人や外国人に聞いて、やさしく教えてくれるのでありがたい。ですから、今まで学校や授業のシステムに関して、漢字と言葉と読み方以外はとくに無し。

ター トウイ リン氏  
 (出身国：ベトナム)  
 日本福祉教育専門学校

(1) 今まで日本に5年間住んでいる。色々な事を体験した。

日本の生活はかなり進んでいるがどこでもコンビニがあるのでとても便利。道に迷ったら日本人に誰でも聞いたら必ず手伝ってもらえる。

日本人と友達になって一緒に遊んで楽しかった。介護専門学校に入ったら、実習も始まって、疲れたが面白かった。

学校の先生は学校のことだけ教えるのではなく、自分の生活の事も助けてくれる。本当にありがたい。

(2) どの授業でもまとめた内容のプリントがある。できれば、全部はルビをふってもらいたい。



李 国鑫 (リ コクシン) 氏  
 (出身国：中国)  
 日本福祉教育専門学校

(1) 日本の生活の中で、一番うれしかったことは、ずっと好きな日本文化を直接

接触できることです。

学んだ日本語を実践して、日本の方々と直接会話することから日本文化を理解しました。日本と中国は一衣帯水の隣国ですので、文化も生活上の慣習もよく似て

日本と中国は一衣帯水の隣国ですので、文化も生活上の慣習もよく似ていますが、実体験を通して、文化の差別または文化の特異を発見することも日本生活の一つの醍醐味だと思います。

また、個人的な理由ですが、私は日本のアニメと漫画が大好きなので、日本で生活して、最新のアニメに関するニュースを見れることと、様々なイベントに参加できること（コミケなど）も私のうれしかったことです。

(2) 学校で実習に参加していますが、いままでの実習先では就職している外国人は少なかったです。高齢化社会のすすむ日本では、人手不足で、外国人が介護現場で就労できるビザが認められたことが大きな話題となったと聞きました。これから、外国人が介護問題に対して自分なりの大きな力になることを予想できます。実習先の介護施設には、もっと日本の介護現状を理解して、もっと外国人を受け入れたらいいなと思っております。



高 崑山（コウ クンセン）氏  
（出身国：中国）  
日本医学柔整鍼灸専門学校

(1) 留学する前には、東京に住む日本人は「冷たい」というイメージがあった。

しかし、留学してみるとみんな親切で優しかった。一度、アルバイト後に終電に乗り遅れたときがあり、家に3時間かけて歩いて帰った時があった。そのときは、日本語がほとんど話せない状態で、家の最寄りの駅名しか伝えられなかった。しかし、家にたどり着くまで4人ほどに道を尋ねたが、皆さん親切に教えてくれて本当に優しかった。

(2) 正直、現在の生活には満足している。

日本は本当に便利な国で、学校のクラスメイトも優しい。ただ、自分の日本語能力を高めないといけない場面に出くわすことが多いので、今後もしっかり勉強していきたいと思っている。



馬 佳美（マ ジャメイ）氏  
（出身国：中国）  
日本医学柔整鍼灸専門学校



(1) 自分のクラスには、留学生・外国人を合わせると5名程中国出身の外国人・留学生がいるが思ったより少なかった。

ただ、学校には、中国語クラブがあり、日本人学生が中国語を学んでいる。なので、日本人が中国語で話しかけてくれることもあり、コミュニケーションをとって楽しいです。

(2) 生活する環境としては不便がないし、学校に対しての不満も特にない。なので、期待していることや変えてほしいことも正直思いつかないので答えづらいです。



(1) 学園生活や日本の生活の中で うれしかったこと

(2) 学園生活や日本の生活の中で もっと期待すること・こうであってほしいこと





センタントアン マリーゼ氏  
 (出身国：カナダ)  
 日本児童教育専門学校  
 保育福祉科  
 昼間コース2年

(1) 先生方からの手厚くサポートして頂けたことが、嬉しかったです。

例えば授業が終わったあとに、

「授業の内容は理解できましたか？」

「もしわからないことがあれば、いつでも聞いてくださいね。」

など、気にかけて声をかけて頂きました。

入学当初、期待以上に不安が大きかった私にとって、先生方からのサポートは非常にありがたかったです。

(2) 留学生が一番苦労するのが”漢字”です。特に専門用語の多い保育の授業では苦労しました。ですので、できれば丁寧な文字で板書して頂けると、とても助かります。

また話を聞きながらノートを取ることも非常に大変だったので、復習や日本語の勉強のためにも、話の内容を板書して頂けるとありがたいです。

宋 陽氏

(出身国：中国)

日本児童教育専門学校  
 保育福祉科  
 昼間コース2年



(1) 授業中のグループワークにおいて、私の意見を理解することに努めてくれたり、逆に私が理解しやすいように、分かりやすく伝えてくれることに、優しさや嬉しさを感じています。

また先生方も優しく丁寧に指導して下さるので、とても授業が楽しいです。

(2) 外国籍の生徒は、保育士として日本で働くことができません。

ですので、私のように日本での就業を希望している生徒のために、保育の学校で学んだ知識を活かして働けるような求人を、たくさん紹介して頂ければと思います。

(1) 学園生活や日本の生活の中で  
うれしかったこと

(2) 学園生活や日本の生活の中で もっと  
期待すること・こうであってほしいこと



## 告知

敬心・研究ジャーナル編集委員会 町田先生・安部先生による

### 「研究」に関する勉強会

研究・研究倫理審査などを理解いただくための勉強会です。

\* 敬心学園 全教職員対象です。

\* 職業教育研究開発センター研究員で出席を希望される方は、ご連絡ください。

日時：11月30日 15：00開始 16：30終了 (予定)

会場：日本福祉教育専門学校 高田校舎 234教室

講師：町田 志樹氏 (臨床福祉専門学校)

安部 高太郎氏 (日本児童教育専門学校)

特集

職業教育研究開発センター  
第1回研究員会議 実施報告

平成30年9月29日10時より、敬心学園 学校支援本部 会議室にて第1回研究員会議を開催しました。人数の関係により、当初予定されていた会場を変更したほか、台風24号が接近しており、落ち着かない天気ではありましたが、研究員の方々にお集まりいただきました。

冒頭には、職業教育研究開発センター川廷宗之センター長より、現在の日本は職業教育の研究が遅れていること、社会人の学び直しや1つの業種に偏らず、いろいろな業種との関わり（異業種交流）を持つことの必要性、ICT（Information and Communication Technology）の発達に伴い、高等教育にも取り入れていく重要性についての話がありました。

その後、初回ということもあり、お集まりいただいた研究員の方々の自己紹介、研究員種別のことなどについて共有する時間となりました。

現在、研究員は、65名(平成30年9月末日現在)の方々に委嘱をさせていただいております。今後は、研究員同士でチームを作り、いろいろな研究を行う方向へと変化していきたいと考えております。

(職業教育研究開発センター 研究員 島谷)

日本の職業教育

- ①若年層の就職難
- ②学校教育、職業の分断
- ③実践的な職業教育の必要性



など

職業教育研究  
開発センター

- ①実践的研究の推進
- ②異業種交流
- ③専門性の追求
- ④研究支援活動(刊行、公開研究会)



など

今までは、教育を学校内で完結する内容としてとらえ、卒業した後、企業内で教育を行い、職業能力を身につけさせるといったように学校教育と職業を分断して考えられていました。しかし、近年、教育を受けながら、実践現場で職業感などを身につけさせる必要性に、我が国も着目し始めています。

諸外国に目を向けても、職業教育について、学校で教育を受けながら生涯学習を推進し、職業教育の教員や指導員を養成することでレベルアップをはかるといったように、重要視されております。

職業教育研究開発センターでは、キャリアを活かすことで新しい発想を追求し、多様な世代・経歴の叢智を結集させて各種の交流を行うことにより、実践的研究活動を追求しながら、人材育成のための教育と教育機関のビジョン形成を行う機関です。

研究員の委嘱を行っていますので、委嘱させていただいた方はもちろん、研究員として活動されたい方は、ご連絡「[vetrdi-kensyu@keishin-group.jp](mailto:vetrdi-kensyu@keishin-group.jp)」いただけましたら幸いです。

現在の活動内容

- 第1班:「介護過程研究」
- 第2班:「20年後の介護ニーズに関する研究(段階の世代の介護)」
- 第3班:「外国人留学生の学習支援」(特に介護関係の)
- 第4班:「介護機器活用(ロボット活用など)の研究」(Under construction)
- 第5班:「心理的支援に関する研究」※
- 第6班:「職業実践専門課程評価に関する研究」※
- 第7班:「介護福祉事業の管理者養成に向けた学修システム構築」※
- 第8班:「地域活性化学習プログラム開発」※

※は研究メンバーの公募を行っておりませんが、興味のある方は、ご連絡下さい。

開発支援事業等

- ①セルナジャヤの教員研修受託
- ②グローバル・カイゴ検定
- ③リエイ・中国事業提携
- ④インド・プロジェクト



第1回  
研究員会議にて  
←川廷センター長

## 告知

## 第8回 公開研究会 外国人介護士と共に働く



日時：12/2 13：00開始 16：00終了（予定）

会費：1,000円（職業教育研究開発センター会員：500円）

＜会場＞日本医療企画 セミナールーム （東京都千代田区神田岩本町4-14 神田平成ビル）

JR・東京メトロ銀座線神田駅（北口・東口）～徒歩5分、JR 秋葉原駅（昭和通り口）～徒歩5分、

都営新宿線 岩本町駅（A3出口）～徒歩3分、東京メトロ日比谷線 秋葉原駅（5番出口）～徒歩4分

『ダイバーシティをどう実践していくか』

社会福祉法人福祉楽団/杜の家成田施設長：上野 興治 氏

『日本における外国人介護職員のチャレンジと現状に関する研究』

立教大学大学院博士課程/社会福祉法人至誠ホーム統括事務局外国人受け入れ担当

フィリピンケアワーカーズ協会会長：ケリ・イメルダ 氏

『外国人受け入れ施設への期待と展望』

公益社団法人 横浜市福祉事業経営者会 コーディネーター：福山 満子 氏

ほか 調整中

＜お問い合わせ・申込み＞

職業教育研究開発センター 島谷（しまや）・杉山（すぎやま）

Tel:03-3200-9074

Mail: vetrdi-kensyu@keishin-group.jp

## 自著紹介

### 研究員ジリアン ヨーク (Jillian Isabelle Yorke) の「元経済産業省 英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本」紹介 (2018.5出版)

この本の構成は、第1部「あらゆる状況の実践的な英語」と、第2部の「英語と文化」から成り立ちます。第1部は私が担当し、1990年代から経済産業省に英文校閲者として働いていた時に気づいた英語の間違いをもとに書きましたが、多くの英語の誤りは、日本語にひばられた間違いが多いことが分かりました。表紙の帯に「次の英語は正しいですか？」という3つの問いかけがあります。①「トムさん」は、Mr. Tom ②「退屈している」は、I am boring. ③「楽しんでね」は、Have fun! どれが正しいか分かりますか？正解は③のみです。①は日本でよくある間違いです。日本語で名前を呼ぶ時、ファーストネームはあまり使わないと思いますが、使う場合〇君とか★さんの様に、名前の後に君・さんを付けます。そのため英語でも君やさんにかえ、Mr. やMs. を付けてしまうのです。英語ではTomの様にそのまま呼びます。Mr. やMs. は姓に付け、少し改まった場合に使います。②は正しく見えますが「私はつまらない人です」。正しくは I am bored.です。



第2部は飛騨高山で四半世紀に亘り、ボランティアで日本とオーストラリア、ニュージーランドとの友好親善活動の事務局長をしてきた森下均が担当、その経験からすぐに使える英語について書いています。第1章「つき合い・マナー」、第2章「表現の違い」、第3章「便利帳」から成ります。その中でも、第1章は読み物として読んで面白いです。例えば「ハグと握手」。外国人とのつき合いではハグも握手も、常に付いて廻ります。日本でも最近は握手は割と一般的ですが、ハグはまだまだ。セクハラではと心配する人も多いと思いますが、外国人相手では相手に合わせそれらを使い分け、恥ずかしがらず挑戦して下さい。最後に「英語SOS」。これは英語に困った時や分からない時、私たちにメールしてもらえたらお答えするというものです。読者になり活用してみてください。助け舟を出します。書店、WEBで注文いただけたら幸いです。（Jillian Isabelle Yorke）＜出版：一般財団法人経済産業調査会 定価：2,200円（税別）＞（英国出身、滞日歴32年。編集、翻訳、文筆などで活躍中。著書「英語で文通しませんか」（共著、「竹中平蔵大臣日誌」（英語版）、「英会話力がアップする英語のことわざ50」（e-book）など。オークランド大学人文学部、法学部卒



## 資料

## 世界と繋がる!! 敬心・研究ジャーナル J-STAGEへ

あなたの論文が世界の研究者の目にとまります!

J-STAGEでは、世界中のユーザーが1か月に500万本以上の論文をダウンロードしています。論文がJ-STAGE上のジャーナルに出版されると、J-STAGEが連携する主要な検索エンジンおよび学術情報サービスを通じて研究成果が広く世界に公開されます。世界中の 科学者、研究者、閲覧者が、J-STAGE上の論文を簡単に見つけることができるようになります。



## 敬心・研究ジャーナル

## バックナンバーを含めた論文を掲載

10月10日現在、昨年度発行した第1巻第1号・2号、及び、最新の第2巻第1号まで学術研究会報告を除くすべての原稿がJ-STAGEに掲載されます。是非ご覧ください。

カスタマイズした検索で、スムーズな研究に活かします

J-STAGEは、電子ジャーナル出版プラットフォームを提供、2,000誌以上のジャーナルや会議録などの学術的な出版物を公開しています。J-STAGEの閲覧は、日本の学協会が出版した最新の論文に（公開後すぐ）アクセスすることが可能で、簡単に検索し、閲覧することができます。

- J-STAGEの登載論文のほとんどは無料で閲覧可能

一部認証付き、論文単位で有料販売されているペイ・パー・ビュー（PPV）の論文もあります。

- 複数の検索条件を使って論文を探ることができます

「発行年」、「標題」、「抄録」、「キーワード」、「DOI」などから必要な論文を検索することができます。My J-STAGEにメンバー登録することで、お気に入りの論文または資料リストからの検索オプションが利用可能。これらの機能を活用することで、論文検索にかかる時間を短縮できます。

- 公開されるすべての論文には、ユニークなID付与

DOI（デジタルオブジェクト識別子）が付与。論文とDOIの紐づけにより論文のリンク切れを防ぎます。

- 引用文献リンク

「引用文献」セクションのリンクをクリックすると、サイト内にとどまったまま関連情報を確認することができます。J-STAGE登載 ジャーナルの論文に限らず、Crossref、PubMed、CAS 上にある論文にも自動的にリンクがはられます。

- 被引用文献リンク cited-by linkingや電子付録の参照もできます。

<https://www.istage.ist.go.jp/static/pages/ForAuthors/-char/ja> より抜粋

詳細はこちらで確認してください。

## 次号予告 1月15日発行予定

## ＜特集＞職業教育 研究の動向（仮）

- 研究事業・開発支援事業の動き
- 第8回公開研究会 実施報告

ほか